

第2回宮城県消防操法大会のあり方検討会

第1回検討会の振り返りと 本日のゴール

1 第1回検討会の振り返り

■ 第1回検討会(令和8年6月25日開催)の主な内容

前回は、今後のあり方を検討するにあたり、現状と課題の目線合わせを行いました。

現状データの共有

全消防団員(回答:2,792名)
及び市町村・地区支部を
対象としたアンケート結
果の報告



課題の共有

全国及び本県の操法大
会における現状課題の
確認



フリートーク

左記を踏まえた、委員の
皆様による意見交換と
現状認識のすり合わせ。

2 データで見る現状と課題①(団員の負担と組織への影響)

■ アンケート結果から、操法大会が団員に与える負担が見えました。

消防団活動の 不満トップ

回答者の約40%(1,128人)が
「消防操法訓練」に不満(負担)を感じている。

練習・準備 への負担

大会出場経験者の90%以上が、
練習や準備に対して負担を感じている。

活動継続 への影響

大会の負担が「今後の活動の継続を考える要因に
なっている」との回答が28%に上り、消防団員減少
の要因の一つとなっている。

2 データで見る現状と課題②(見直しの必要性)

■ 現状の維持は難しく、抜本的な見直しが求められています。

若手勧誘 への弊害

回答者の**75%**が「現在の県操法大会の形式で
参加・参加を勧めるのは難しい」と回答

現場が求める 方向性

76%が「新しい形や工夫・改善」を希望
具体的には「実災害を想定した形式への変更」や
「開催時間の縮減」を求める声が多数

運営側(地区支部 ・市町村)の負担

約90%が「現在の県大会の形での運営継続は
難しい」との回答

3 第1回検討会での主な意見(フリートークより)

■ 前回の討議では、委員の皆様から現場の実情を踏まえた様々な意見が出されました。

“

操法自体は重要だが、
過度な競技性やスピード重視
は実際の現場に合っていない

“

長時間の訓練は、選手となる
団員だけでなく指導する
消防職員にも多大な負担

“

若い世代は仕事や家族の
都合で参加が難しく、選手が
固定化・高齢化している

“

一部の選手だけでなく、
広く一般団員に技術を広める
場であってほしい

4 第1回検討会で確認された「共通認識」

■ アンケート結果と委員の意見を踏まえ、第1回では以下の3点が「共通認識」として確認されました。

①団員の負担

- ・ 出場経験者の**90%以上が負担**を感じている。
- ・ **サラリーマン団員**が大半を占める現代、長期間におよぶ訓練は限界に達している。

②運営側の負担

- ・ 市町村・支部の約**90%**が「**現行形式での大会継続は困難**」と回答している。
- ・ 開催地の**輪番負担**だけでなく、夜間・休日に指導にあたる消防職員にも**過大な負担**がある。

③実践的技術 の向上

- ・ 器具取扱や安全操作を学ぶ場として、**操法訓練自体の重要性**は依然として高い。
- ・ 一方でタイムを競う現行形式は「**現場で本当に役立つ実践訓練**」と乖離している。

5 本日の検討会(第2回)のゴールと進め方

- 本日は、前回の共通認識である「**負担軽減と技術維持の両立**」に基づき、
今後の県大会の新しいやり方の方向性を決定することがゴールです。

【本日の進め方】

